

文20 その山は、①ここに②たとへ③ば、
比叡の山を二十ばかり重ね上げ
たら⑤む⑥ほどして、⑦なりは
塩尻のやうに⑧なむありける。

問一 傍線部①はどこを指すか。この文は物語の語り手が述べている文で、物語の語り手は京に住んでいることをふまえて答えよ。また、比叡の山は京にある山である。

ア富士山の周辺 イ京 ウ東国

問二

傍線部②「たとへ」の終止形は「たとふ」で、「ず」をつけると「たとへず」になり、「ず」の上がエ段になるので、下二段活用（エ—エ—ウ—ウ—ウ—エよ）である。この「たとへ」の活用形として考えられるものを次の二つ選べ。

ア未然 イ連用 ウ終止 エ連体
オ已然

文20 その山は、①ここに②たとへ③ば、

比叡の山を二十ばかり重ね上げ
たら⑤む⑥ほどして、⑦なりは
塩尻のやうに⑧なむありける。

問三

傍線部②の「ば」は次の三つの訳を持つ。この場合はどれ？

アもしゝならば

※未然形 + 「ば」

いゝので

※已然形 + 「ば」で、

「ば」の上の出来事が原因で、
「ば」の下の出来事が起こつた。
ウゝすると・ゝしたところ

※已然形 + 「ば」で、

「ば」の上の出来事のあと、
「ば」の下の出来事が
たまたまが起こつた。

文20 その山は、①ここに②たとへ③ば、

比叡の山を二十ばかり重ね上げ
④たら⑤む⑥ほどして、⑦なりは
塩尻のやうに⑧なむありける。

問四

傍線部④の「たら」は終止形
に直すと「たり」で、完了の
助動詞である。次の二つの意
味を持つ。ここではどちら？

ア 完了（～してしまつた・～た）

※～の瞬間に注目
イ 存続（～ている・～てある）
※～の後の状態に注目

文20 その山は、①ここに②たとへ③ば、
比叡の山を二十ばかり重ね上げ
たら⑤む⑥ほどして、⑦なりは
塩尻のやうに⑧なむありける。

問五

傍線部⑤「む」意味はどれ?
※傍線部⑥「ほど」は名詞。

◎ 「む」 + 「名詞か名詞省略」

ア仮定（としたら）

例 僧になさむ「こと」は苦し。

イ婉曲（訳不要）

例 し出さむ「こと」を待つ。

◎

「む」（下には名詞は絶対来ない）

提案してない

ウ推量（だろう）

例

雨降らむ。

エ意志（しよう）

例

我肉食はむ。

※「むとす」

はუカエだが、

この見分け方は使えない。

※「むとす」

はუカエだが、

この見分け方は使えない。

提案している

オ勧誘（したらどうか）

相手あり

例

一郎、花を見てこそ帰らめ。

力適当（のがよい）

相手なし

例

子はなくてありなむ。

文20 その山は、(1)ここに(2)たとへ(3)ば、
比叡の山を二十ばかり重ね上げ
(4)たら(5)む(6)ほどして、(7)なりは
塩尻のやうに(8)なむありける。

問六 傍線部⑦ 「なり」は次の二つ
の訳ができる。この場合はど
ちらか。

ア かたち イ 身なり・服装

問七 傍線部⑧の「なむ」について

(1)この語の意味は?

ア 強意 イ 疑問 ウ 反語

(2)この語があると文末は何形にな
るか。

ア 未然 イ 連用 ウ 終止 エ 連体
オ 已然 力命令

このページは空白ページです